

帰宅困難者等対策について

災害発生時の心得〜むやみに移動を開始せず、落ち着いた行動を〜

大規模な災害が発生すると公共交通機関が運行を停止し、帰宅が困難になることが予想されます。

しかし、災害発生時に多くの人が一斉に徒歩で帰宅を始めると、火災や沿道の建物からの落下物などにより負傷する危険があるばかりでなく、災害時に優先されるべき救助・救急活動の妨げとなります。

【災害発生時には「むやみに移動を開始しない」】▼まずは自分の身の安全を確保しよう。▼職場や集客施設等の安全な場所にとどまろう。▼災害用伝言サービスにより家族の安否や自宅の無事を確かめよう。▼交通情報や被害情報などを入手しよう。

【日ごろから準備しておきたいこと】▼携帯ラジオや地図を持ち歩こう。▼職場などに歩きやすいスニーカーや懐中電灯、手袋、飲料水や食料などを用意しよう。▼事前に家族などと安否確認の方法や集合場所を話し合っておこう。▼徒歩やバスにより帰宅経路の状況を確認して

おこう。(千葉県や九都県市ではコンビニやガソリンスタンド等と徒歩帰宅支援協定を締結しており、水道水、トイレや交通情報などを可能な範囲で提供して頂けます。)

【災害用伝言サービス】災害時の安否確認方法を確認しよう

【災害発生時には災害用伝言サービスの活用を】平成23年3月に発生した東日本大震災では、家族などとの安否確認の電話が大量に殺到し、県内でも電話がつながりにくくなりました。

こうした災害の発生時でも家族や知人との安否確認や避難先の連絡等を行うことができるのが災害用伝言サービスです。

災害用伝言サービスは、毎月1日と15日などに体験利用ができませんので、この機会に家族や知人との安否確認方法を確認しておきましょう。

【災害用伝言ダイヤル(171)】震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生したときに、被災地の方が「171」の番号をダイヤルすると、自宅の電話番号あてに音声による安否情報を録音することができます。電話番号を知っている方であれば、全国から再生ができ

ます。

一般電話、公衆電話、携帯電話、PHS、スマートフォンから利用ができます。

【伝言の登録方法】▼「171」にダイヤルします(ガイダンス(案内)が流れます)▼録音するには「1」をダイヤル。▼自宅の市外局番からの電話番号をダイヤルし、ガイダンスに従ってメッセージを録音します。

【伝言の再生方法】▼「171」にダイヤルします(ガイダンス(案内)が流れます)▼再生するには「2」をダイヤル。▼安否を確認したい相手の市外局番からの電話番号をダイヤルし、ガイダンスに従って再生します。

【災害用伝言板】震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生したときに、携帯電話・PHSのインターネット接続機能を使い、自身の安否情報を文字で登録することができます。電話番号をもとに全国の携帯電話・PHSから登録された安否情報を確認することができます。

携帯電話、PHS、スマートフォンから利用できます。【伝言の登録方法】▼メニューのトップページから「災害用伝言板」

を選択。▼「災害用伝言板」の中の「登録」を選択。▼次の4つの選択肢のうち該当するものに✓チェック(□無事です。□被害があります。□自宅にいます。□避難所にいます)▼任意のコメントを入力(100文字以内)し「登録」を押す。※コメントの例：今、家族全員で〇〇小学校にいます。

【伝言の再生方法】▼メニューのトップページから「災害用伝言板」を選択。▼「災害用伝言板」の中の「確認」を選択。▼安否情報を確認したい人の携帯電話・PHSの番号を入れ、「検索」を押す。▼伝言が登録されていると、一覧が表示されるので、確認したい安否情報を選択。

【安否情報まとめて検索】「Jan pi」電話番号または「氏名」を入力することで、各通信会社が提供する災害用伝言板、各企業・団体が提供する安否情報(テキスト情報)を一括で検索し、結果をまとめて確認することができます。なお、安否情報の検索は、パソコン、インターネット接続に対応した携帯電話、スマートフォンで可能です。
【Jan pi】の検索ページ
<http://anpi.jp/>

国勢調査 2025

平成27年10月1日

総務省統計局・千葉県・市町村



平成27年国勢調査を全国いっせいにおこないます。
 国勢調査は、統計法という法律に基づいて、日本に住んでいるすべての人・世帯を対象として実施する統計調査です。

9月上旬から調査員が皆様のお宅を訪問し、調査書類をお配りします。今回の調査では、先にインターネットでの回答を受け付け、インターネットで回答がなかった世帯には、紙の調査票を配布して調査を行います。

御回答を宜しくお願いいたします！